



☆ もうすっかり春です。

みなさん、こんにちは。もうすっかり春めいてきました。この間まで丸坊主だった木々も芽を吹き、色とりどりの花を咲かせ始めました。

そこで今回は、春にぴったりのウキウキしてくる本を集めてみました。どうぞ、お子様と一緒に楽しみください。また、みなさんも、ぜひ図書館や本屋さんで、春をさがしてみてください。



楽しい春がやってきた！！



絵本・ぼくはあるいた

まっすぐまっすぐ

M・W・フラウン作、林明子絵、ペンギン社

おばあちゃんから電話がかかってきて、ぼくは一人でおばあちゃんの所へ出かけることに。家の前の道をまっすぐ行って、田舎道をまっすぐまっすぐ歩いて行くと…。子どもらしい発想とかわいらしい絵の絵本。

絵本・ひとあし ひとあし

一なんでもはかれるしゃくとりむしのはなしー

レオ・レオニ作、谷川俊太郎訳、好学社

コマドリに食べられそうになったシャクトリ虫は、コマドリのしっぽを測ることで難を逃れる。それからフラミンゴの首、オオハシのくちばしなどを測っていったシャクトリ虫は、ある日ナイチンゲールに歌を測れと言われ…。

洗練された色彩の、美しいコラージュ（貼り絵）による絵本です。

絵本・えかきうたのほん

中村征子・西巻茅子文、西巻茅子絵、福音館書店

まみこがクレヨンで描いた女の子“リリコ”は、スケッチブックから飛び出してきて、次々とクレヨンで絵を描いていく。描いた絵は、描いたはしから動き出し…。親しみやすい絵と、たくさんの絵かき歌とでできた楽しい絵本。子どもの心がいっぱいつまっていますよ。

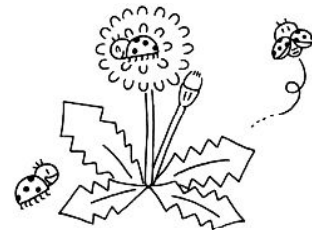
詩の本・のはらうた 一～四

工藤直子著、童話屋

“のはらみんなの代理人”工藤直子さんが、のはら村を散歩しながら集めた、のはら村のみんなの声を書きとめた本です。

著者の自然を愛しむ心がにじみ出た詩は、ほんわかと暖かくて、きらりとユーモアがひかり、声に出して読みたくなるほどです。

四巻まで出ていますので、お好きな巻からどうぞ。



絵本・よもぎだんご

さとうわきこ作、福音館書店

子どもたちと泥だんご遊びをしていたばばあちゃんは、本物のよもぎだんごを作ることになりました。子どもたちと野原でよもぎを摘んでついでにいろんな野草も摘んで、おだんごを作ったり、あえ物にしたり…。

読み終わる頃には、みなさんもきっと、ばばあちゃんと一緒におだんごを作りたくなっていますよ。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

5月17日(土)、6月21日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ 天気の良い日も絵本で楽しくすごしましょう。

みなさん、こんにちは。6月といえば梅雨，うっとおしい季節というイメージですが，絵本の世界では雨にちなんだものがいっぱいあります。

今回は，雨の日もステキ！！と思える絵本を集めてみました。字のない絵本もありますので，天気が悪くて外で遊べない日など，ゆっくりながめて楽しんでみてはいかがでしょうか？



雨の日もステキ！！



字のない絵本・雨、あめ

ピーター・スピアー絵、評論社

女の子と男の子が，降り出した雨の中レインコートを着て長ぐつをはき大きなかさを2人でさして出かけます。雨に煙る子どもたちのシルエット，水たまりに描かれる波紋，しずくの光るクモの巣，排水溝に流れ込む水や雨宿りの動物たち…やがて雨をたっぷり楽しんだ子どもたちは，お風呂に入り眠りにつきます。字は1文字もありませんが，絵から雨の楽しさが読みとれるすてきな絵本です。

絵本・あまがさ

やしまたろう文・絵、福音館書店

誕生日に新しいかさとお長ぐつを買ってもらったモモは，雨の日が待ちきれません。やっと雨がふった日，モモは大喜びです。絵が暗く，子ども向けでないように思われるかもしれませんが，雨音が「ぼん ぼろ ぼん ぼろ」と音楽を奏でるところなど子どもはとても喜びます。

絵本・あめふり

さとうわきこ作、福音館書店

毎日雨ばかりで，空の上のかみにりに腹を立てたばばあちゃんは，だんろやストーブに火をつけてどんどんいらないものを燃します。その間にも，雨はふり続き，こいぬもこねこも心配になってきます。さて，そのときばばあちゃんがだんろとストーブに入れたものは？！読んだあとスカッと気持ちのよい1冊です。



絵本・しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ作、ポフダン・フテンコ絵
うちだりさこ訳 福音館書店

擬人化されたしずくが，泥水にはいたり，洗濯機で回ったりといろいろな冒険をします。水が様々に姿を変える不思議とおもしろさが，とても洒落た絵と手書きの文字で描かれています。科学絵本としても，おはなしの絵本としてもじゅうぶん楽しめると思います。



絵本・おじさんのかさ

佐野洋子作・絵、講談社

おじさんは，雨にかさがぬれるのがいやで，自慢のかさを決してさしません。ところがある日，子どもたちがかさをさして歌っていました。「あめがふったら ポンポロリン あめがふったら ピッチャンチャン」あんまり楽しそうだったので，おじさんはついにかさを開いてしまいます。

絵本・あかいかさ

ロバート・フライト作、ほるぷ出版

女の子が，赤いかさをかってでかけます。すると雨がふってきて，子犬が1匹かさに入ります。その次は子猫が2匹，ニワトリが3羽…かさの下には雨宿りの動物たちがいっぱい！小さな手のひらサイズの愛らしい絵本です。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では，すばなしと絵本の読み聞かせを，毎月第3土曜日に行っています。ぜひ，楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

7月19日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや

※8月はお休みです



みみずく通信

発行：すばなしの会みみずく
http://www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ おひさまがいっぱいの楽しい夏です。

みなさん、こんにちは。幼稚園や学校はもう夏休みですね。暑い、暑いといって、涼しい冷房の部屋にばかりいたのではもったいないですよね。長いお休みだからこそできることっていっぱいあります。キャンプに行ったり、海水浴に行ったり、おじいちゃん・おばあちゃんに会いに行ったり…。

本の中でも、たくさん子どもたちがそれぞれの夏休みを過ごしています。一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

No. 5

2003.7.19



暑い夏は子どもの季節！！



絵本・うさこちゃんとうみ

ティック・フルー文・絵
石井桃子訳 福音館書店

「きょうはうみにいくんだよ。いきたいひとだあれ？」父さんと海に行くことになったうさこちゃんは、水着に着替えて、砂山を掘ったり、貝を拾ったり…。

単純で色鮮やかな絵と、簡潔でわかりやすい文章で、海辺の一日を描いた絵本です。幼い子にどうぞ。



絵本・はちうえは ぼくにまかせて

ジーン・ジオン作 マーガレット・フロイ・グレアム絵 もりひさし訳 ペンギン社

おとうさんの仕事で、夏休みにどこへもいかないことになったトミーは、旅行する人の鉢植えを預かることにしました。一生懸命世話をしたので、どんどん伸びて、家の中はまるでジャングルのように。ちょっと困ってしまったトミーですが、最後はみんなに喜ばれ、トミーにも遅い夏休みがやってきます。

絵本・よあけ

ユリー・シュルヴィッツ作・画
瀬田貞二訳 福音館書店

湖の岸辺の木の下、静かな闇の中眠る祖父と孫。黒々と静まりかえる山々や湖。そこにやがて朝が近づいてきます。夜中から早朝までの大自然の光、影、色の変化と、視界の広がりを水彩で巧みに描いた絵本です。静かで詩的な短い文と絵は、深く美しい印象を心に残してくれます。

絵本・だいちゃんとうみ

木田大八作・絵 福音館書店

夏休み、だいちゃんは、いとこのこうちゃんの家遊びに行きました。船で沖へ出てつりをしたり、海で泳いだり、海辺の家での一日をつづった絵本です。

昔懐かしい風景や、色彩の美しい心温まる絵をほのぼのとした雰囲気とともにお楽しみください。

絵本・くんちゃんのもりのキャンプ

ドロシー・マリノ作
間崎ルリ子訳 ペンギン社

クマのくんちゃんは、いとこのアレックと森にキャンプに出かけることになりました。途中、こまどりに巣の作り方を教わったり、あひるに泳ぎ方を教わったり…。いろいろ失敗しながらも“きちんとした、クマらしいやり方”を学んでいくくんちゃんに、子どもの成長を教えられる気がします。



読み物・はじめてのキャンプ

林明子作・絵 福音館書店

小さな女の子“なほちゃん”は、無理を言って、大きな子たちと一緒にキャンプに連れて行ってもらいます。重い荷物も持つし、真っ暗な夜にひとりでおしっこにも行けました。

一つ一つ、幼い子どもが自信をつけていく姿を、やさしい文章と暖かみのある絵で描いています。読み物としましたが、小さい子から楽しめます。

絵本・ぼあちゃんのなつやすみ

梅田俊作/佳子作・絵 岩崎書店

今日は東京から娘や孫たちがやってくる日。ぼあちゃんは朝から落ち着きません。孫たちが来たらどこへ連れて行こう、何して遊ぼう…

子どもの頃を思い出しながら、楽しいことを待つソワソワ・ワクワクする気持ちはいいですね。ぼあちゃんと一緒に、ドキドキしてみませんか。

絵本・めっきらもっきらどおんどん

長谷川撰子作 降矢奈々画 福音館書店

“かんだ”が神社でめちゃくちゃな歌を歌っていると、風によって奇妙な声が聞こえてきました。そこで、声が聞こえてきた穴をのぞいたとたん“かんだ”はひゅうっと穴に吸い込まれて…。

映画「となりのトトロ」でもトトロとの出会いは神社でしたよね。神社という所は、摩訶不思議な空間とつながっているものなのかもしれませんね。

絵本・サンタのなつやすみ

レイモンド・フリックス作
さくまゆみこ訳 あすなろ書房

ある夏の日、サンタはそりをキャンピングカーに改造して、いざフランスへ！お次はスコットランド、それからラスベガス。

「スノーマン」などでおなじみのブリグズがお届けする、楽しいサンタのお話。サンタにも夏休みはあるのですよ！



絵本・ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム作
光吉夏弥訳 ほるぷ出版

ある暑い日、ガンピーさんが小舟で出かけると「いっしょにつれてって！」と子どもたちがやってきました。後からウサギ、ネコ、イヌ…と次々にやってきて小舟はいっぱいになり、とうとうみんながけんかを始めます！

ペン画に淡い水彩で描かれた絵は、ゆったりした気分を与えてくれます。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **9月20日(土)** ※8月はお休みです
時間 **午後3:00~3:30**
場所 **西部図書館 お話し会のへや**





☆ 絵本の中に秋を探しに行ってみませんか？

みなさん、こんにちは。早いものでもう秋です。木々は色づき、実は熟し、食べ物もおいしい季節です。夜は静かで、見上げれば月が銀色に輝いています。

そこで、今回はそんな秋を集めてみました。みみずく通信では初お目見えの日本昔話の絵本も入っています。いろいろな秋をご賞味ください。



秋を探して…



絵本・たろうのともだち

村山桂子作 堀内誠一絵 福音館書店

ある日、コオロギが散歩していると友達がほしくなり、ヒヨコに声をかけます。でも、ヒヨコのご機嫌が悪く家来にされてしまいます。そして、ヒヨコはネコの、ネコはイヌの家来になり…。最後にみんなが会ったたろうは、何と言ったのでしょうか？絵本の題名にヒントがあります。リズムカルな文章と、明るい色彩の絵が、お話を盛り立てます。

絵本・おつきさん どうしたの

E・M・フレストーン文 B・クーニー絵 岩波書店

ある満月の夜のこと、おかあさんの留守中に家を抜け出したがちょうのちびは、池で泳ぎながら月を見て大騒ぎ。お百姓さんを起こして叱られてしまいます。そのうち、とうとうキツネにつかまってしまい、さあ大変！
淡い水彩で描かれた夜の世界が美しい絵本です。

絵本・しずかなおはなし

サムイル・マルシャーク文 内田莉紗子訳
ウラジミール・レーベテフ絵 福音館書店

夜の森へ散歩に出かけたハリネズミの親子は2匹のオオカミに気付き、丸くなって身を守ります。それでもオオカミがあきらめきれずにいると、遠くで銃声と犬の吠える声が…。
真夜中の森の中、静かに演じられる動物たちのドラマを、そっと語りかけるようにつづった1冊です。

絵本・かにむかし

木下順二文 清水崑絵 岩波書店

日本の代表的な昔話「さるかに合戦」の絵本です。他の昔話と同様、このお話もいろいろな絵本が出ていますが、この絵本は、方言の響きを巧みに生かした味のある語り口が特徴です。子ガニとクリやハチなどの仲間たちとの問答もリズムカルで、耳に快く響きます。また、墨絵に朱色の着色だけの漫画風の絵も、ユーモラスながらじゅうぶん迫力があります。

なお、この絵本は、岩波の子どもの本のシリーズで出ている他、大型本のものも図書館には置いてあります。



読み物・おおきなおおきなおいも

赤羽末吉作・絵 福音館書店

幼稚園では、楽しみにしていた芋掘り遠足が雨で延期になり、みんながっかり。そこで子どもたちは、まだ見ぬ大きなお芋の絵を描くことにしました。紙をどんどん継ぎたして、絵の具でぬって…できあがったのは、特大のお芋！！
想像が限りなく広がっていくストーリーと、それに合わせた躍動感のある絵がすばらしい本です。図書館では物語の本の棚にあると思いますので読み物としましたが、小さい子でも楽しめる絵本と考えてもいいと思います。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **11月15日(土)**、**12月20日(土)**
時間 **午後3:00～3:30**
場所 **西部図書館 お話し会のへや**



みみずく通信

発行：すばなしの会みみずく
http://www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆クリスマスは楽しいことがいっぱい！

みなさん、こんにちは。今年ももうクリスマスのシーズンになってしまいました。街にはクリスマスソングが流れ、色鮮やかな飾りやイルミネーションが輝き、大人でさえもワクワクした気持ちになります。本屋さんにも、図書館にも、クリスマスの絵本がたくさん並んでいます。さあ、今年はどうな絵本でクリスマスを楽しみますか？作者や出版社が心を込めて作った絵本は、愛があふれています。そんな素敵な絵本に出会える子どもたちは、とても幸せです！

No. 7
2003.12.20



絵本・クリスマスってなあに

ディック・ブルーナ作 講談社

クリスマスの由来を、幼い子にもわかりやすい文章と絵で描いた絵本です。

イエス・キリストが生まれた夜、天使が羊飼いにその誕生を伝え、星がその場所へ導きます。また、三人の学者も星に導かれてやってきます。この日を祝うのが、クリスマスなのです。「クリスマスってなあに？」と聞かれたら、この絵本をどうぞ！

絵本・ハリーのセーター

ジーン・ジオン作 マーガレット・プロイ・グレアム絵 渡辺茂男訳 福音館書店

犬のハリーは、誕生日におばあちゃんから、バラの模様のセーターをもらいました。着てみるとほかほかでぴったり。だけど、模様は気に入らないし、みんなにも笑われてしまいます。ハリーは何とかしてセーターを捨てようと思いますが、うまくいきません。そこへ小鳥がやって来て…おしまいは、おばあちゃんと子供達、そしてハリーも笑顔です。そしてクリスマスには、ハリーにすてきなプレゼントが届きます。



絵本・ちいさなろば

ルース・エインズワース作 石井桃子訳 酒井信義画 福音館書店

クリスマスイブの夜、ひとりぼっちの小さなろばがサンタ・クロースに頼まれたことは、怪我をしたトナカイにかわってソリをひくことでした。そして、ろばは夜空を飛んでサンタの手伝いを…。次の朝、ろばには素晴らしいプレゼントが待っていました。やわらかな色調の絵から、小さなろばの気持ちが伝わってくる絵本です。

絵本・マドレーヌのクリスマス

ルドウィッヒ・ベーメルマンズ作 江國香織訳 BL出版

パリにあるツタのからまる古いお屋敷に、12人の女の子が暮らしています。中で、一番おちびで元気がいいのがマドレーヌ。そのマドレーヌの優しい心が、凍った魔術師をとかし、みんなに素敵なプレゼントが贈られます。赤いじゅうたんに乗った女の子たちの、夢のような挿絵が美しい一冊です。

絵本・ぶたためききつねねこ

馬場のぼる作 こぐま社

「11ぴきのねこ」シリーズでおなじみの馬場のぼるさんが作った、愉快なしりとり絵本です。「おひさま・まど・どあ…」と続く言葉に合わせて、思わず笑ってしまうような絵でストーリーが展開していきます。そして、最後に出てきたものは…。続編の『ぶたためききつねねこ その2』も楽しいしりとりのおはなし絵本です。

絵本・ちいさなもみのき

マーガレット・ワイズ・ブラウン作 バーバラ・クーニー絵 福音館書店

森の小さなもみの木は、足の悪い男の子の部屋でクリスマスツリーになりました。春には森へ帰り、冬にはまた男の子のもとへ…。ところが、その冬はだれも迎えに来てくれる人がいませんでした。もみの木が寒々とした野原にひとりで立っていると、そこへ歌声が響いて…。4色の美しい絵が広がりを持ち、静かな生命力を感じさせてくれます。また、楽譜付きのクリスマスキャロルは、ぜひ歌ってみてくださいね。

絵本・ゆうびんやのくまさん

フィービとセルビ・ウォージントン作・絵 間崎ルリ子訳 福音館書店

郵便屋のくまさんは、クリスマス・イヴでも大忙し。朝早くから起きて、プレゼントを配ったり、手紙を集めたり…。豊かな色彩とやさしい語りで、働き者のくまさんの一日を描いた絵本です。仕事を終えて家に帰ったくまさんを待っていたものは…。(くまさんも、ちゃんとプレゼントをもらいましたよ！)



絵本・トムテ

ヴィクトール・リードベリ作 山内清子訳 ハラルド・ウィーベリ絵 偕成社

“トムテ”とは、農場に住んで、農場とその持ち主の幸福を守る小人です。ある雪の夜、トムテはひとり目覚めていて、ひとつの難しい問題を考えていた「人はどこから来て、そして、どこへ行くのだろう。」静かで、美しい詩の文と、丁寧に描かれた暖かみのある絵が魅力の絵本です。

絵本・さむがりやのサンタ

レイモンド・ブリッグズ作 菅原啓州訳 福音館書店

この絵本にでてくるサンタは、ちょっと変わっています。寒さや天気や煙突にまで文句を言います。でも、ソリにプレゼントを積んで、世界中の子どもたちのところへ空を飛んでいきます。(たとえ嵐の中でもね！) 漫画のようなコマ割りが、物語に変化を与え、色彩も豊かで楽しい絵本です。

読み物・サンタクロースって いるんでしょうか？

ニューヨーク・サン新聞社説
フランシス・P・チャーチ著
中村妙子訳 東逸子絵 偕成社

「サンタクロースっているんでしょうか？」8歳の少女が新聞社に質問しました。それに対し新聞社の社説はこう答えを出しました。「この世の中に、愛や、人への思いやりや、真心があるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです。」この社説を書いた記者、フランシス・P・チャーチの言葉には、慈しみがあふれ、“本当のこと”を考えさせられます。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は 1月17日(土) 2月21日(土)
時間 午後3:00~3:30
場所 水戸市立西部図書館 お話し会のへや





☆ まだまだ寒い日が…でも春までもう少しですね！

気分の浮き立つクリスマスやお正月が過ぎ、普段の生活に戻った2月ですが、節分には、豆まきをしてお寿司を丸かじり？しました。これで厄が払えれば言うことなしですね。

さて今回は、春を目前に、前回クリスマス絵本特集でご紹介できなかった冬の絵本を集めてみました。雪の日の楽しみや大変さ、そして冬だからこその心のあたたかさ…。子どもも大人も、絵本の中でいっぱい味わってください。



雪、冬、そして春へ…



絵本・ゆきのひ

E・J・キーツ文・絵 木島始訳 偕成社

ピーターが目覚めると、窓の外は雪でした。まっ白な雪の上で、ピーターは遊びます。大きい子の仲間に入れてもらえなくても、存分に雪の日を楽しみます。1963年コルディコット賞受賞作。切り絵・貼り絵の手法の絵が美しく、簡潔な日本語訳も作品の良さを伝えるのに一役かっています。

絵本・はたらきものの

じょせつしゃ けいていー

バージニア・リー・パートン作 石井桃子訳 福音館書店

冬のある日、雨が雪に変わり、大雪になって、雪は2階の窓まで降り積もりました。そこで、一人働くのが、赤くて、強くて、大きな除雪車“けいていー”です。まずは警察から郵便局へ。「ついていらっしやい」と、雪で動けなくなったみんなを引き連れて“けいていー”の大活躍が始まります。

絵本・おそばのくきはなぜあかい

石井桃子文 初山滋絵 岩波書店

寒い冬の日、川を渡りたいという老人の頼みを、寒がりの麦は断ります。けれども、そばは冷たい水の中も老人を気遣いながら渡ります。川を渡り終えると、そばの足は真っ赤でした。すると、それを見た老人は…他に「おししのくびはなぜあかい」「うみのみずはなぜからい」を収録。三つお話が楽しめます。

絵本・しんせつなともだち

方軼羣(ファン・イーチュン)作 君島久子訳 福音館書店

雪の降る寒い日、食べものを探しに出かけたうさぎが、かぶを2つ見つけます。うさぎは1つを友だちのろばに届けます。すると、ろばはそのかぶをやぎに、やぎは鹿に…うさぎの見つけたかぶは、巡り巡って…。友だちを思いやる心が、寒さを忘れさせるほど温かいおはなしです。



科学絵本・ふゆめがっしょうだん

富成忠夫・茂木透写真 長新太文 福音館書店

冬の木々は殺風景だという人がいます。でも、この本を見てください。本の中の木々の冬芽たちは、様々な顔で春を待っています。冬芽の下の部分には落葉した葉の柄の跡があります。その跡が、コアラやサル顔に似て、なんともユーモラスです！「パップパップ」というリズムカルな文と共に、春を待つ冬芽の姿を楽しんだら、ちょっと庭や公園の木々に目をむけてみてはいかがでしょうか。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

3月20日(土)、 4月17日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや